

令和7年7月吉日

報道各位

一般社団法人日本自動車車体補修協会
代表理事 吉野一

JARWA、一般社団法人日本自動車会議所へ加盟 「Mobility Transparency」の理念を、モビリティ文化の中核へ

制度と文化の両面から構想を展開し、自動車産業の信頼基盤を再構築

一般社団法人日本自動車車体補修協会（略称：JARWA、代表理事：吉野 一）は、2025年6月11日付で、一般社団法人日本自動車会議所（代表理事：豊田 章男）に団体会員として加盟いたしました。

JARWAは設立当初から、事故修理や車体整備の現場を中心に、「Mobility Transparency（モビリティ・トランスペアレンシー）※」という理念のもと、修理技術の高度化や修理内容の透明化を通じ、第三者にも分かりやすく信頼される仕組みの構築に取り組んでまいりました。

この背景には、「信頼性こそが持続可能なモビリティ社会の土台である」という組織としての基本的な価値観があります。

具体的には、自動車補修溶接における適切な条件を管理・共有する技術データベースの整備、修理内容・使用部品・費用を明確に記録・開示する「自動車修理“見える化”認定制度」の導入、さらに消費者・整備工場・保険会社をつなぐクラウドツール「モビコンBP」の活用を通じ、整備の信頼性と公正な評価の実現に取り組んでいます。

これらの取り組みを現場に定着させ、整備業を起点にモビリティ社会全体へと理念と仕組みを広げていくため、JARWAは現在、「次世代整備産業ビジョン推進委員会 設立準備委員会」（非公開）を通じて、交通安全・中古車流通・保険・補償・環境対応・地域モビリティなど、社会インフラ全体と連携した中長期的な構想の具体化を進めています。

こうした活動は、整備業界の枠を超えたモビリティ社会の信頼基盤を再構築する構想として、段階的かつ計画的に展開されていますが、その実現には従来の業界内の枠組みでは限界があることから、JARWAは、自動車産業全体を横断する対話と共創の場として、日本自動車会議所への加盟を決断いたしました。

日本自動車会議所は、「自動車販売、整備、金融、保険、リース、流通などの幅広い業界団体が結集する、政策提言と業界統合の中核的なプラットフォームである」とJARWAは認識しています。

JARWAにとっても、「Mobility Transparency」という理念のもとで横断的な活動を推進していくうえで極めて適した連携基盤であり、今後はその一員として、モビリティ社会全体に対する価値提案と構造改革を、各分野と連携しながら推進してまいります。

またJARWAは、日本自動車会議所の会長である豊田章男氏（トヨタ自動車会長）が掲げる「クルマをニッポンの文化に！」というスローガンにも深く共感しています。

私たちは、クルマ文化とは製造された瞬間ではなく、その後の「使い続けられる過程」にこそ根付くものと考えています。最適化された修理、地域に根ざした整備、整備士による地道な技術の蓄積——こうした営みが人々の暮らしに溶け込み、信頼とともに次代へ受け継がれていくことこそが、文化としてのモビリティのあるべき姿だと確信しています。

JARWAは、整備現場からこの「文化」を支え、未来へとつないでいくための技術基盤と制度インフラの整備に、今後も一層尽力してまいります。

以上

※ **Mobility Transparency（モビリティ・トランスペアレンシー）**：モビリティに関わるあらゆるプロセス情報——販売プロセス、移動プロセス、整備プロセス、見積プロセス、査定プロセス、保証プロセス、技術者の技能習得プロセス、情報の可視化プロセスなど——を 結果とマージして「説明できる状態」で共有し、制度として透明性を確保する社会インフラの概念

<参考資料リンク>

一般社団法人日本自動車車体補修協会（JARWA）

<https://jarwa.or.jp/>

一般社団法人日本自動車会議所（ABAJ）

<https://www.aba-j.or.jp/>

Mobility Transparency宣言

<https://jarwa.jp/declaration.html>

<本件に関するお問い合わせ>

一般社団法人 日本自動車車体補修協会（JARWA）

担当窓口：飯塚

<https://jarwa.or.jp/inquiry/>

<参考>

